

世田谷パン祭り実行委員会の活動報告

【要旨】

2011年から開催された「世田谷パン祭り」は2024年で14回目を迎えた。2023年には来場者が6万人を超え、全国的にも人気の食のイベントである。

本活動報告では、世田谷パン祭りが生まれた経緯、運営者の方の想い、そしてパン祭り当日の会場の様子を世田谷区公認団体「情熱せたがや、始めました。(ねつせた!）」のメンバーが取材。

本文は2つのパートに分けられる。

1.世田谷パン祭り実行委員長へのインタビュー

三宿四二〇商店会 会長 世田谷パン祭り 実行委員長 間中伸也氏へのインタビュー。世田谷パン祭りが生まれた経緯や地域への想いをお伺いし、その想いを若者ならではの感性で紐解く。

2.2024年11月3日(日)、世田谷パン祭り当日の会場取材

間中氏の想いをお伺いしたうえで、世田谷パン祭り当日の会場を取材。運営者の想いを感じながら、会場レポートをまとめた。

金子 愛実 川越 心晴 高橋 怜那 木原 菜桜 桑野 愛子
KANeko, Megumi KAWAGOE, Kokoha TAKAHASHI, Reina KIHARA, Nao KUWANO, Aiko
(情熱せたがや、始めました。(ねつせた!))

【情熱せたがや、始めました。(ねつせた!)とは?】

若者たちが、SNSを使って世田谷の魅力を情報発信する世田谷区公認の団体です。

若者が自らの視点で集めた世田谷のもの・こと・人を、いつでも・どこでも・手軽に知ってもらえるよう、X(旧Twitter)やInstagramなどSNSを使った情報発信をしています。

高校生・大学生・若手社会人などで構成されるメンバーで、企画・取材・撮影・編集を行っています。

はじめに

昨今、全国各地で開催されている「パン祭り」。数々のパンが楽しめる、人気のイベントです。今や、パン祭りと言えば全国どこでも開催されているイベントの1つですが、今から10年以上前はここまでメジャーなイベントではありませんでした。

実は、パン祭りがまだ全国的に開催されていない時に、パン祭りの走りとして開催されたのが、「世田谷パン祭り」なのです。

今回は、世田谷パン祭りを考案したオールドファッション株式会社代表取締役、三宿四

活動報告

二〇商店会 会長の間中伸也氏にお話を伺いました。

【間中伸也（まなかしんや）氏プロフィール】

オールドファッション株式会社 代表取締役

三宿四二〇商店会 会長 世田谷パン祭り 実行委員長

ハンカチ専門店を営む傍ら、地域をつなげる活動をしたと一念発起して、三宿四二〇商店会を立ち上げる。

ハンカチ専門店の「H TOKYO」では選りすぐりの上質な素材、洗練されたデザイン、丁寧なものづくりを基本にハンカチをつくっています。

■H TOKYO 三宿店

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 1-1-11

TEL 03-3487-4883

■三宿四二〇商店会

三宿通り（都道 420 号鮫洲大山線）の周辺地域において、商店などの事業者を中心に 2009 年 10 月に発足した商店会。

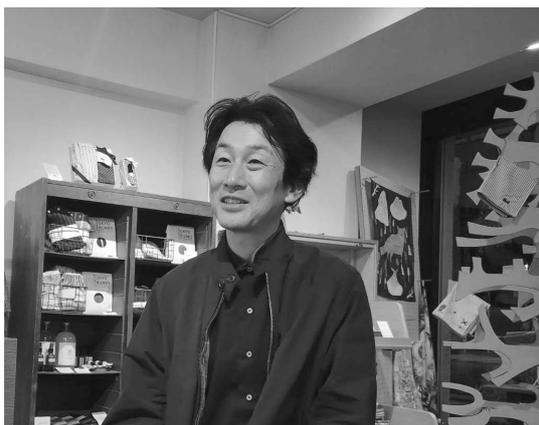


写真 1 間中伸也氏



写真 2 H TOKYO 三宿店。こちらはオリジナルの商品

【世田谷パン祭りとは】

「世田谷パン祭り」は、毎年多くの人々を魅了する、パン好きのためのイベントです。

2011年の初開催時には約40店舗が出店し、約7000人が来場しました。以来年々規模を拡大し、今年で14回目を迎えます。2023年には約260店舗が出店し、来場者が6万人を超えました。

この祭りの魅力は、何ととってもバラエティ豊かなパンの数々です。全国各地から集結した人気ベーカリーが、それぞれのこだわりを詰め込んだパンを販売します。世界のパンやここでしか味わえない限定パンも販売され、パン好きにはたまらないラインナップです。

パンだけでなく、パンに合うドリンク、ジャム、雑貨など、豊富な「パンのおとも」も揃います。また、パンにまつわるワークショップ「パン大学」の開催や、耳までおいしい情報を届ける「パンラジオ」など、多種多様なプログラムで参加者を魅了しています。

地域の人々との交流も多く、地元の小学生から社会人までが運営スタッフとして参加し、イベントを盛り上げています。

2024年のテーマは「The world is a slice of bread.」スペインのことわざを引用し、世界はパンでつながっているというニュアンスが込められています。

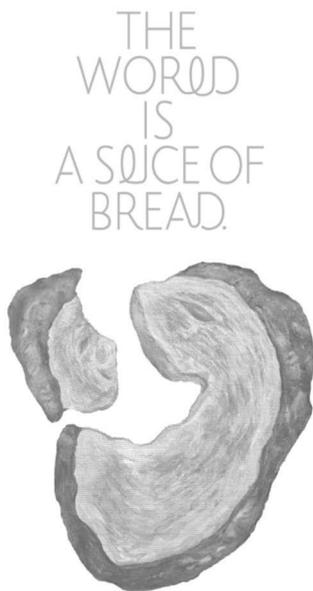


図1 2024年に使用されたキービジュアル



写真3 多くの方が列を作る会場内の様子（2024年）



写真4 パンのおともも充実。写真はコーヒー販売の様子（2024年）

1. 世田谷パン祭り開催の経緯

ねつせた！「まず世田谷パン祭りが始まった目的や経緯についてお伺いしたいです」

間中氏「2009年に三宿四二〇商店会を立ち上げました。商店会を立ち上げることで自分のお店だけでなく地域全体が盛り上がり、周りに声掛けをしました。商店会はあくまでも組織なので何かしないと人は集まらないと思い、小さなイベントをいくつかやるよりは大きなイベントをやってまちを盛り上げようと考えたのです。そのとき、美味しいパン屋が世田谷にたくさんあることに気づき、パンのお祭りをやったらいっぱい人が集まるのではと思いつきました」

ねつせた！「1番最初にどのお店に声を掛けられましたか？」

間中氏「『出店してくれるパン屋さんが集まるのか』『そもそも人が集まるのか』という

2つのハードルがあり、商店会に加盟している Signifiant Signifié（シニフィアンシニフィエ）さんや LaTerre（ラ・テール）さんにご連絡したところ協力を得ることができました。協力店舗が見つかり、とても嬉しかったことを今でも覚えています。その後も世田谷区近辺のパン屋さんにさらに声掛けを行いました」

ねつせた！「第1回目の世田谷パン祭りの反響はどうでしたか？」

間中氏「現在、多くのパン祭りが全国的に開催されているのですが、2011年（第1回パン祭りの開催時期）には、そもそもパン祭りの前例がなく、成功するのかが本当に不安でした。初年度は40店舗ぐらいの協力店舗さんが集まり、なんと7000人ほどのお客さんが来てくれました。自分たちも大変驚き、パンがこれほど人を集める魅力的なものなのかと手応えを感じました。中には、わざわざ全国から飛行機に乗って来てくださった方もいました。また、今年はインドの方からも参加したいと問い合わせをいただいています」



写真5 店舗には多くの方々の笑顔があふれていた（2024年）

ねつせた！「すごいですね！」

間中氏「日本のパン文化はとても洗練されていて、フランスやドイツなどの世界でも人気のパンがそのままの味で美味しく食べられるんです。一方で、1番重要だと考えているのは『フェス』ではなくローカルな『お祭り』という形で、地域の方々に楽しんでいただくことです。

パン祭り当日はとて多くの方にご来場いただいています。多くの方が来られるので場合によっては近隣にお住まいの方にご迷惑がかかるかもしれません。そのため、地域の方に優先的に入場いただける券を配布して、まずは地域の方にパン祭りを楽しんでいただいています。そして、地域の方にパン祭りの運営に参加していただく仕組みもあります。実際に池尻小学校の児童に運営をしてもらったりして、地域で一緒にパン祭りを作り上げています。当時はまだパンの大きな祭りがなかったので、我々がパン祭りの先駆けだった

と自負しています。パン好きの人にこのパン祭りが刺さったのかなと考えています」



写真6 パン好きにはたまらない「パンで埋め尽くされた」会場の一部（2024年）

ねつせた！「世田谷パン祭りの立ち上げに際して苦勞などありましたか？」

間中氏「最初は商店会の単独で立ち上げたので、商業的なイベントと見なすか見なさないかで助成金の対応の問題がありました。また、始めて1、2年は世田谷公園での開催許可が降りないこともありました。ただ、今では大きなイベントに成長し、皆さんが理解してくださり、協力してくださっています」

2. 世田谷パン祭りの運営体制や内容について

ねつせた！「世田谷パン祭りの運営体制を教えてください。」

間中氏「当初は一人で出店のお声かけや企画立案を行っていましたが、現在は組織化した運営ができています。数百店舗の出店者の対応をする事務局、SNSでの発信から企画立案までを担当する広報、Webページ制作担当、デザイン制作担当、パン大学・パンラジオの企画担当等で運営しており、毎週会議を行っています。その他にも社会人や大学生、池尻小学校の児童が当日ボランティアとして参加してくれています」

ねつせた！「地域の学生や児童のボランティアは何人くらい活動されているのでしょうか？」

間中氏「約200人くらいです。学生だけではなく、いろいろな業種の社会人の方もボランティアに参加していただいております、とてもありがたいです」

ねつせた！「世田谷パン祭りでは、パンの販売以外にも様々な取り組みがされているかと思えます。例えば、パンにまつわるワークショップを行う『パン大学』では毎年様々な講師の方が活躍されていますが、講師の方はどのようなご縁で来られているのでしょうか。」

間中氏「パン大学の運営メンバーが、その年のテーマに合わせた企画をやってくれそうな方にお声がけをしています。食べ物のイベントは有名なお店の商品を集めて、お客さんが買って食べるだけ、というのが一般的です。しかし、世田谷パン祭りではパンの作り手の気持ちも学んでほしいという想いがあり、『パン大学』は欠かさず開催しています」



写真7 子どもたちも楽しめるワークショップ（紙漉きで作るパンカード 2024年）

ねつせた！「地域と関わる取り組みの一つとして池尻小学校の児童に運営スタッフとして参加してもらい、というものがありませんでした。なぜ来場者としてではなくスタッフとして参加してほしいという思いがあるのでしょうか？」

間中氏「自分の住む地域のお祭りなので、お祭りを自分たちが作るという気持ちを持って欲しいからです。大変だけど、考えて、体を動かして参加する運営側の方が楽しいんです。ぜひ子どもたちにも一緒に立場になって楽しんで欲しいと思っています」

ねつせた！「大学とのコラボレーションも行っていると思いますが、どのような経緯で実現したのでしょうか？」

間中氏「世田谷パン祭りで1番関わりが強い昭和女子大学とは、商店会の企画によってつながりができたことがきっかけです。世田谷パン祭りのアドバイザー会議に参加していた

だいたり、チラシに載せる地域施設の取材をしていただいたりしました。偶然のきっかけではありましたが、毎年世田谷パン祭りに関わっていただき、良い関係性が続いています」

3. 地域を盛り上げたい！間中氏の想い

ねつせた！「世田谷パン祭りを始めたきっかけをお伺いしたときに、自分だけではなく地域を盛り上げていきたいとおっしゃっていたのが印象に残っているのですが、もう少し詳しくお話をお伺いしてもよろしいでしょうか？」

間中氏「自分が地域に対して外に開いていかないといけないと思ったのは、社会人になって20代を過ごしているときです。

仕事が忙しくて家と会社の往復だけになってしまい、そこで寂しさを感じました。隣に住んでいる人が誰かもわからないし、挨拶さえしない。まちにどんな人が住んでいるのか分からなかったのです。お店を開いていれば、お客さんとは良い関係が持てるけれど、お店に興味ない人とは関係が持てていなかったんです。地域にお店を出しているのに、ハンカチに興味がない人とは関係ないと思っていいのかと思い、自分が地域に対して外に開いていくことを決めました。例えば、自分から街の人に挨拶をしたり、商店会の清掃活動に参加するなど。そうすると、地域の色々なことに顔を出すようになって、道を歩いていても、色々な知り合いに声をかけてもらえるようになりました。自分が地域に対して外に開いていくことで“お店だけじゃない関係性”を地域と持てることが良いと感じています」

ねつせた！「世田谷パン祭りの今後の理想形はありますか？」

間中氏「はたから見ると、人がこんなにたくさん来てくれてよかったねと思ってもらっていると思うのですが、私自身は初回の世田谷パン祭りが終わった後、反省しかなかったです。自分が思い描いた形になったのは、世田谷パン祭りを始めて10年くらいたった時ですね」

ねつせた！「もっと先を見て、世田谷パン祭りの理想形があったということですか？」

間中氏「そうですね、あれもやりたい、これもやりたいという思いがありました。やり残したことをどうにか形にしたいと考えながら、毎年パン祭りをやって気がついたら10年たっていました」

ねつせた！「これで完成形ではなくて、もっと進化していくのですね」

間中氏「はい。毎年同じようなことをやっているように見えて、時代が変わっているので、毎年テーマを決めて新しいことをやっています」



写真 8 当日の取材の様子

ねつせた！「ここまでお話を伺って、間中氏から世田谷パン祭りに対する情熱をととても感じたのですが、この情熱の原動力は何ですか？」

間中氏「お祭りだからみんなで集まって頑張ろう！という気持ちが日本人の心にあるから頑張れるのだと思います。もちろん私にも、そんな気持ちがあります。地方から出てきた学生さんや社会人の方が、地域との関係性が薄れてしまっているのではないかと思って、世田谷パン祭りが毎年顔を合わせて、また今年も会えたねという地域との関係性を築くことのできる場であり、普段関わることのない人と出会える場になればいいなという想いが原動力です」

ねつせた！「世田谷パン祭りの今後の目標をお伺いしたいです」

間中氏「今後の目標は、世田谷パン祭りを長く続けていくことですね。「100年続けるお祭りにしよう」ということを掲げています。お祭りをすることで、一体感や地域の連携・絆を感じられます。これが地域の礎になっていると思っています。長く続けることは本当に大変ですが、大変だけど意味があると思うので、これからも地域の礎になり続けるように長く続けていきたいです」

活動報告

ねつせた！「素敵なお話をありがとうございました」



写真9 間中氏とねつせた！メンバー

4. パン祭り当日レポ

いよいよ世田谷パン祭り当日です。11月3日、実際にねつせた！メンバーが取材に行ってきました！

【世田谷パン祭り 2024 データ】

日程：2024年11月2日（土）～11月3日（日祝）

時間：11:00～16:00

会場：世田谷公園、三宿四二〇商店会加盟店（東京都世田谷区池尻 1-5-27）

出店：ベーカリー108店舗（うち出品23店舗、予約パンのみの22店舗含む）

パンのおとも39店舗、フードやドリンク28店舗が参加、

2日間でのべ271店舗（*）が出店・出品。*2日間の出店・出品店舗のべ数

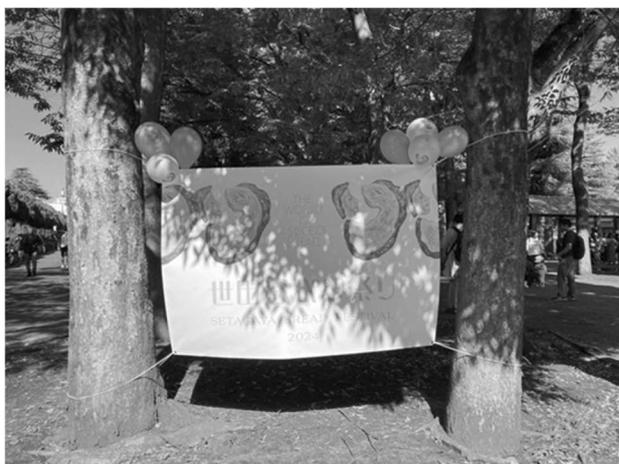


写真10 キービジュアルが様々な場所にあしらわれていました(2024年)

会場となった世田谷公園に到着すると、パン祭りへの入場のための長蛇の列ができていました。列に並ぶ方々は、出店店舗が掲載されているパン祭りのチラシを嬉しそうに見ています。



写真 11 パンを求める来場者でいっぱいの会場(2024年)

会場に入ると、たくさんのパンが並ぶ光景が目に入り圧倒されました。カレーパンやメロンパン、クリームパンなど王道パンのほか、ヴィーガンの方向けのパンや、揚げピザをアレンジしたフリッツアの専門店など多種多様なパンを販売する店舗が集結しています。パン好きにはたまらない空間です。

パンと一括りに言っても様々な種類があり、改めてパンの幅の広さに驚くとともに感動しました。

ねつせた！メンバーもそれぞれ気になるパンを購入させていただきました。清瀬市などに店舗を構える「考えた人すごいわ」さんの焼きカレーパンと世田谷区の経堂に店舗を構える「パンキチ」さんのクランベリークリームチーズをいただきましたが、どちらも優しい味わいで美味しかったです。



写真 12 色とりどりのパンが並んでいる(2024年)

活動報告

会場にはコーヒーやカフェオレ、りんごジュースなどパンに合うドリンクを販売している店舗もあったので、ドリンクと一緒にパンを楽しみました。会場内にはイートインスペースを利用している方や、レジャーシートなどを持参し公園内に座って、ドリンクを片手にパンを食べている方々が多くいらっしゃいました。

パンを楽しんだ後は、パンにまつわるワークショップを行う「パン大学」を見学させていただきました。パン張り子絵付け、紙漉きで作るパンカード、パン柄プラ板キーホルダー作りなど様々なワークショップがあり、参加者の方が真剣に取り組んでいる姿を見ることができました。



写真 13 インタビューでもお話を聞いたパン大学は大盛況でした (2024 年)



写真 14 パン大学のワークショップではパンにまつわる工作体験などができます(2024 年)



写真 15 パン張り子絵付けワークショップ(2024年)

その他にも、会場内の世田谷パンラジオで様々なアーティストやDJのお話を楽しむことができたり、「クロワッサン」「メロンパン」「アミュリア」の3部門で実施されているベストブレッドコンテストがあったり、ワクワクするコンテンツがたくさんありました。

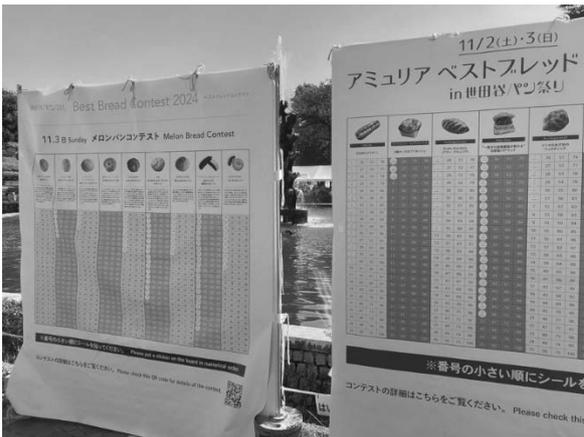


写真 16 ベストブレッドコンテスト(2024)

世田谷パン祭りに参加し、パンの魅力の奥深さを改めて感じました。

出店者の方々も来場者の方々もパンを愛していることが伝わる、パン愛に包まれたとても居心地の良い空間でした。



写真 17 パンのおともにコーヒーを購入(2024年)



写真 18 ねつせた!メンバーが購入した、想いのこもったパン(2024年)

間中氏にお話をお伺いして世田谷パン祭りに取材に行ったことにより、一つ一つの取り組みの裏にある、ストーリーや想いを噛みしめることができました。「自分だけではなく地域を盛り上げていきたい」という一つの想いが、こんなに大きなイベントに成長したことにとっても感動しました。

会場のスタッフの方は大変お忙しいようではありましたが皆様笑顔で、生き生きと輝かれていたこともとても印象的でした。

世田谷パン祭りがこれからも更に愛される地域のイベントとして続いていくことを心から願っています。

おわりに

ねつせた!は世田谷区が大好きな若者が、世田谷区のもの・こと・人を若者ならではの視点で情報発信しています。

様々な取材を経験する中で、たくさんの方の想いに触れ、刺激をもらうとともに、世田谷区が更に大好きになっています。

「若者ならではの視点で若者に伝える」をモットーに、今後もイベント取材やインタビュー取材など色々な経験をして、自分達も成長しつつ、多くの方に「世田谷区の情熱」を届けていきたいです。